

施策評価は、同一施策内の事務事業の優先度判断をA、B、Cの3段階にランクづけし、このランクがCとなっているものについては、各部局の配分財源内における予算要求段階で必ず一度見直し、さらに、優先度判断でAとしたものについては、限られた財源の範囲内で重点配分できないか検討することとしている。

政策評価については、政策間優先度判断の結果に基づき、政策的な財源配分や、各部局間の調整等を行う際に、政策背会議、政策会議での議論の場で活用することを考えている。

習志野市での行政評価の取り組み

習志野市の実施する事業の必要性や改善点、事業の進め方について、第三者の視点から検証する「事業仕分け」について聞いた。

普段、利用しない行政サービスについて、市民に知ってもらうと同時に、本当に市民にとって必要なのか考えてもらう機会であり、市職員の意識改革を促すことも狙いのひとつである。結果については不要9件、民間（市の支出なし）5件、県・国1件、市の実施（要改善）15件、市の実施（現行どおり）2件であった。現行どおりの実施はわずか2件とかなり厳しい結果であった。

■まとめ

行政評価の本来の目的は内部業務の効率化といった事業の見直しや、仕事のたな卸しをすることで税金の使われ方の透明性と効率性をはかることである。形式的に行政評価をするだけで、単なる手続き、アリバイ行為になってはならないだろうか。これからは感情や思惑でなく、行政が行う事業の結果や効果をもとに議論していかなければならない。その上で、一部だけを事業仕分けすることでもなく、事業の必要性は全体の事業の中で議論していく必要がある。近年における各市の厳しい財政状況により、事業の結果や効果など評価をもとに優先順位を加えて行っていく必要があるが、事務事業評価における第三者の視点をいかに取り入れていくか、課題があるが、現在の財政状況について危機感を持ち、行政改革に努めなければならない。また、参加したセミナーにて栃木県のある町の行政評価担当者の言葉が印象的であった。「隣接する市との合併が破談したため、自立する道を選ばざるを得なかった。住民がどこまで我慢してもらえるのか、当初の不安もあったが、身の丈にあった行政運営を目指すことになった。」このことは鎌ヶ谷市にとっても人事ではない。まず鎌ヶ谷市自体が持続可能な自治体になるための道具として行政評価をしなければならない。



松沢たけひと プロフィール

- 昭和50年 鎌ヶ谷市東中沢で誕生
- 昭和57年 みちる幼稚園卒園
- 昭和62年 市立鎌ヶ谷中部小学校卒業
- 平成2年 市立鎌ヶ谷第四中学校卒業
- 平成5年 県立白井高等学校卒業
- 平成8年 アメリカメンフィス大学にて語学研修を受ける
- 平成9年 中央学院大学法学部法律学科卒業
- 平成18年 (株)人形工房 武人設立 代表取締役
- 節句人形師として、日本古来の伝統を守り続ける
- 平成19年 鎌ヶ谷市議会議員 初当選

私、松沢たけひとは33歳と会派市民クラブの中では最年少ですが、鎌ヶ谷市議会議員の一人として、市民の皆様に信頼され、そして、期待に応えられるよう行動してまいります。

お金をかけないクリーンな活動を展開するため、サポーターを募集しています。 〒273-0112千葉県鎌ヶ谷市東中沢2-19-88
松沢たけひと みんなの会 事務所 TEL047-445-5260 FAX047-443-5551
<http://www.t-matsuzawa.com>